



(高梁会場：総合文化会館)

市民の皆さんの声を 市政に!!

市は、市民の皆さんのご意見、ご提言を市政に反映させるため4月27日から5月30日(17会場)にかけて、町内委員、まちづくり委員等を対象に「市政懇談会」を開催しました。

今回の懇談会では、昨年度策定した、市の総合計画と行財政改革大綱、今年度の予算を説明し、その後、意見交換を行いました。

今月号では各会場で、寄せられた意見、提言の中から、主なものについて紹介します。なお、その他の意見、提言については各会場ごとにまとめたものを、8月から企画課、各地域局・地域市民センターで閲覧できるようにします。

市の財政とまちづくり

()内は会場名

なぜ、市の負債が約
400億円まで生
じたのか。(津川、川面)

答

現在、国の借金が約
600兆円、地方が約
200兆円となつて

います。戦後、日本は国債を
発行して、急成長してきました。
しかし、景気の低迷による
経済不況に陥り、景気浮揚
対策として国は数回にわたる
経済対策を行い、大量の国債
を発行。地方も国に同調し地
方債を財源として計画にある
事業の前倒し執行などを行っ
てきたことから、市の負債が
約400億円の残高となつて
います。今後10年間で半減を
めどとして、抑制に取り組み
ます。

都市間競争、地域間競争が
激しくなり、国に頼る時代で
はなくなってきました。自
立性を高め、健全財政を維持

するよう努めていきます。

合併後、地域の格差を感じるがー。

(津川、巨瀬、有漢、備中)

答

合併前の各自治体では農業振興、医療・福祉、道路整備などそれぞれ特徴ある事業を展開してきました。こうしたものを合併後すぐに一体化することは難しく、格差が生じているのは事実です。この格差については、平成19年度末までにその対応について調整を行い、地域の特色を生かした“適地適策”を推進していきます。

また、行財政改革大綱に沿った事務事業の見直しでは、できるものから年度を繰り上げて実施していき、早い時期に市内の一体化が図られるようにしていきます。

総合計画で市の人口の目標を4万人にしているが、今後減少していくのではー。(巨瀬)

答

交流人口の増加により、そこに雇用が生じ、ひいては定住人口が増えるという取り組みを進めることにより、4万人を達成したいと考えています。今後何もしなければ、減少していくことは明らかです。総合計画を着実に実行し、人口増加につなげていきます。全国



朝の通学・通勤時には大勢の人が降り立つJR備中高梁駅

1820の市町村(平成18年4月1日現在)のうち約3分の2が過疎地域です。市には、高梁学園の学生が約4000人います。そのうち約4割が市外から電車で通っていて、JR備中高梁駅の乗降客は年間約100万人です。大学生や高校生のほか、通勤している人、観光客も含めると、昼間人口は4万人ほどになるといえると思います。

こうした人たちにも、高梁市に住んでもらえるような施策を考えていかなければなりません。

今は、これまでの事務事業を「担は低く」とすべての事務事業を見直したのでは市の財政はたちまち立ち行かなくなります。

今後は、これまで行ってきた事務事業を見直す中で、行政がしなければならぬものと、市民の皆さんが中心となり市と協働して行っていくものとの区別が必要となります。中には、サービスの廃止などにより、市民の皆さんにも受益に応じた負担を求められることになるとはありますが、これからのまちづくりは、行政と市民の皆さんの協働により進めて行きたいと考えています。

行財政改革

行財政改革で、市民に直接影響するようなことはあるのか。

(松原、高倉)

答

行財政改革は、厳しい国、地方の財政状況の中で、地域が自立していくための財政基盤を強化しようというものです。その際に、「サービスは高く、負

今後の行財政改革に合併特例債をどう生かすか。

(成羽)

答

高梁には181億円、合併特例債対象枠があり、全市にわたる事業、合併後の一体感醸成のための事業に使うことになっていきます。現在、市には約400億円の負債があり、年間45億円